

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立峰小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 81人

② 算数 81人

5 留意事項

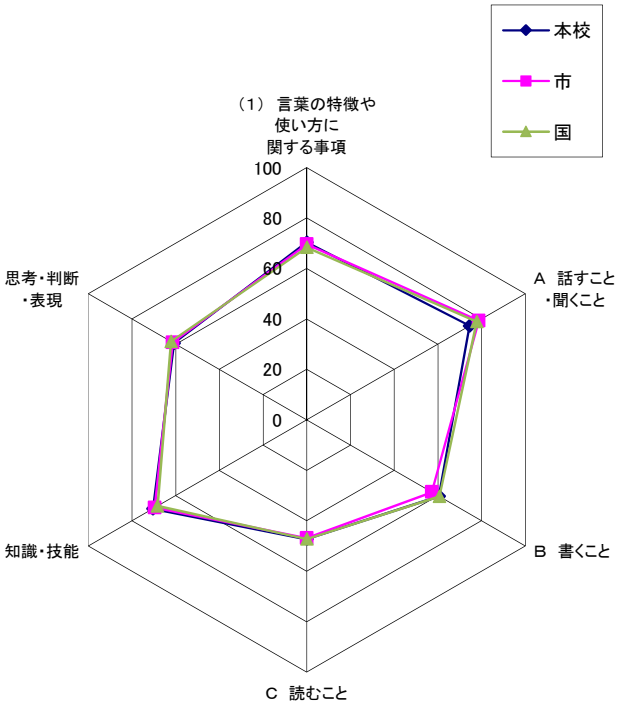
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立峰小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	70.4	69.6	68.3
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	74.5	78.7	77.8
	B 書くこと	60.5	57.3	60.7
	C 読むこと	47.3	46.9	47.2
観点	知識・技能	70.4	69.6	68.3
	思考・判断・表現	60.8	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

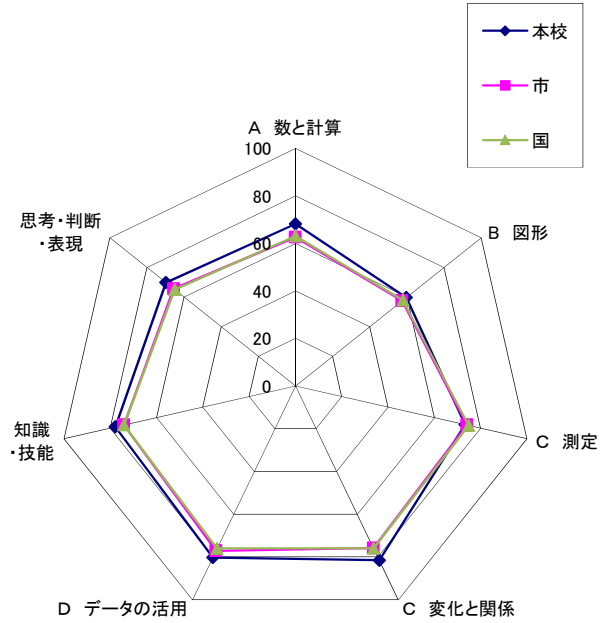
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や 使いに関する事項	○平均正答率は70.4%であり、市の正答率を0.8ポイント上回っている。 ○修飾語被修飾語の関係をとらえる問題では、県の平均を4.6ポイント上回った。 ●文中における主語と述語との関係をとらえる問題では、県の平均を2.8ポイント下回った。	・漢字の習熟を図るために、反復練習だけでなく、意味を能動的に調べたり文中で正しく使ったりできるような工夫を授業に取り入れ取り組ませる。 ・主語・述語・修飾語などの文法に関する事項について、単元の中だけでなく、普段の文章や会話の中で意識させる指導をする。 ・朝の学習の時間に、定期的に文法に関わる学習を行う。
A 話すこと・聞くこと	●平均正答率は74.5%であり、市の正答率を4.2ポイント下回っている。 ○目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題では、県の平均を3.4ポイント上回った。 ●資料を用いた目的を理解したり、目的や意図に応じ資料を使って話す問題では、県の平均を5.5ポイント下回った。	・「話す・聞く」に関わる授業では、体験から学べるよう、多くの経験を積めるように、実際に人前で発表やスピーチ、話し合いを行うことを重視して行う。 ・資料を用いて発表やスピーチをする際に、発表後に資料を用いた効果について検証し合う活動を取り入れ、資料の効果を確かめさせるようにする。
B 書くこと	○平均正答率は60.5%であり、市の正答率を3.2ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じ、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題は、県の平均を1.1ポイント上回った。 ●自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題では、県の平均を1.5ポイント下回った。 ●記述式の回答では、無回答率が約10ポイントである。	・文章の構成を意識して、文を書くよう意識付けを図る。 ・序論・本論・結論などの文の構成を習得する練習や、理由を明確に示す文章の書き方の練習など、習得の目的をはっきりさせて文章を書く練習を定期的に行うようにする。 ・無回答の児童には、取り掛かりのためのキーワードになるものを個別に与え、つまづきにに応じた助言を行う。
C 読むこと	○平均正答率は47.3%であり、市の正答率を0.4ポイント上回っている。 ○文章全体の構成をとらえ、内容の中心となる事柄を把握する問題や、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問題は、県の平均をそれぞれ4.4ポイント、3.6ポイント上回った。 ●目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける問題では、県の平均を3.4ポイント下回った。 ●記述式の回答では、無回答率が11.1%の問題があり、県の平均よりも7.7ポイント上回っている。	・普段から、読書などに親しませ、長文に慣れるようにする。 ・文章への書き込みをさせたり、ノートに人物相関図を書かせたりして、文章を構造的に見る指導を行う。 ・無回答の児童には、取り掛かりのためのキーワードになるものを個別に与え、つまづきにに応じた助言を行う。

宇都宮市立峰小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	68.2	62.6	63.1
	B 図形	59.7	57.5	57.9
	C 測定	73.3	74.1	74.8
	C 変化と関係	81.5	75.8	75.9
	D データの活用	80.2	77.1	76.0
観点	知識・技能	77.8	74.1	74.1
	思考・判断・表現	69.8	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○平均正答率は68.2%であり、市の正答率を5.6ポイント上回っている。 ○「8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く」設問の正答率は66.7%であり、県よりも14.2ポイント上回っている。 ●「30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く」設問の無回答率が13.6%となっている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・加減乗除に関わる計算は、今後も繰り返し練習を行うことで定着を図る。また、小数や分数の計算では、小数点の移動や通分、約分のしかたを確認する。 ・「単位量あたりの大きさ」については、基準量と比較量の意味を繰り返し確認し、理解の深化を図る。
B 図形	○平均正答率は59.7%であり、市の正答率を2.2ポイント上回っている。 ○「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く」設問の正答率は54.3%であり、県よりも8.2ポイント上回っている。 ●「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く」設問の無回答率が6.2%となっている。	・図形の学習では、今後も具体物を使ったり図をかいたりする活動を多く取り入れるようにする。 ・図形の構成要素や性質について確認する。また、様々な図形の面積を求める公式については、ただ覚えるだけではなく、その公式を導き出す途中過程も大切にする。
C 測定	●平均正答率は73.3%であり、市の正答率を0.8ポイント下回っている。 ○「午後1時35分から50分後の時刻を書く」設問の正答率は91.4%であり、県よりも2.1ポイント上回っている。 ●「直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ」設問の正答率は65.4%であり、県よりも5.1ポイント下回っている。	・時刻の学習では、アナログ時計の模型などをもとに、児童が視覚的に捉えやすいような指導を行う。 ・三角定規を組み合わせることで平行四辺形などの図形ができることを、実物を活用しながら視覚的に捉えさせるようにする。
C 変化と関係	○平均正答率は81.5%であり、市の正答率を5.7ポイント上回っている。 ○「アとイの二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ」設問の正答率は67.9%であり、県よりも14.3ポイント上回っている。 ○「500mを歩くのに7分間かかることをもとに、1000mを歩くのにかかる時間を書く」設問の正答率は90.1%であり、県よりも3.8ポイント上回っている。	・「速さ」については、道のりと時間との関係をもとに、速さが、1時間あたりに進む道のりで表されていることを再度確認する。 ・速さ、道のり、時間を求める公式について確認し、日常生活の事象について生かせるよう定着を図る。
D データの活用	○平均正答率は80.2%であり、市の正答率を3.1ポイント上回っている。 ○「帯グラフから、割合の違いが一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く」設問の正答率は61.7%であり、県よりも9.9ポイント上回っている。 ●「6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ」設問の正答率は93.8%であり、県よりも1.9ポイント下回っている。	・グラフについては、読み取りだけではなく、文章の情報と関連させたり、複数のグラフから適切に判断したりするような活用を増やしていく。 ・表したいものの特徴によって、棒グラフ、帯グラフ、円グラフなどを使い分けられるよう、それぞれのグラフのよさについて授業で触れるようにする。

宇都宮市立峰小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ。」と回答した児童の割合は、90.1%で、県平均を3.2ポイント上回っている。「いじめゼロ強調月間」でいじめゼロ集会やいじめを取り上げた道徳授業でいじめについて考える活動を行い、いじめはいけないという意識を学校全体でできている成果であると考えられる。今後もいじめゼロ強調月間の時だけではなく、いじめはやってはいけないという意識をもつように、学級活動や休み時間も通して指導していきたい。

○「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと思う。」と回答した児童の割合は、74.1%で、県平均を4.1ポイント上回っており、AIDリルやスライドでの発表原稿作成のタブレット学習の成果が表れている。
今後も、宿題や授業の中でタブレット学習を取り入れ、調べ学習の他にもノートとして使用し、勉強に役立つツールとして使用していきたい。

○「国語の勉強は大切だと思う。」と回答した児童は、84.0%で県平均を7.7ポイント上回っている。また、「算数の勉強は大切だと思う。」と回答した児童の割合は、82.7%で、県平均を63.6ポイント上回っている。家庭学習ががんばり週間を通して、家庭学習への習慣が身に付いていると考えられる。今後も、勉強の意欲を高められるように、家庭学習では保護者との連携を図ることや授業の中で将来につながる話をしながら勉強する大切さを伝え続けることを行っていきたい。

●「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。」と回答した児童の割合は、34.6%で、県平均を7.0ポイント下回っている。
今後、スマホ・ルール徹底の期間や道徳授業の情報モラルについて指導し、自分でルールを考えたり、お家の人とルールを確認できるようにしていきたい。

●「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童の割合は、58.0%で、県平均を3.8ポイント下回っている。今後は、宮。未来キャリアパスポートの活用やキャリア教育を通して、将来の自分の姿を考えさせていきたい。また、様々な教科において夢に向けて努力している事例にふれさせたり憧れの人についてタブレットを使って調べ学習させたりしていきたい。

●「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。」と回答した児童の割合は30.9%と県の平均を3.4ポイント下回っている。今後は、授業の中で振り返りの時間をとり、今日の授業の振り返りをするように徹底する。また、家庭学習ががんばり週間や宿題で自主学習ノートに復習をするように指導していきたい。

宇都宮市立峰小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを分かりやすく文章に書き表す力の育成	様々な場面で書く指導の充実を図っている。学年の実態に応じて、書くテーマや内容項目、字数など条件に合わせた作文指導を行っている。	国語科の書くことの領域における正答率は、県の平均と比べてほぼ同じである。目的や意図に応じて、理由を明確にしながらか自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫する問題の正答率は、県の平均と比べて1.1ポイント上回っているが、自分の主張が明確に伝わるように文章全体の構成や展開を考える問題の正答率は、県の平均と比べて1.5ポイント下回っている。算数科において解答する理由を述べる記述式の問題の正答率は、県の平均と比べて10.0ポイント上回っているが、無回答率は、県の平均と比べて3.7ポイント上回っている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年度初めに「家庭学習の手引き」を作成し、その中で曜日ごとの学習時間の予定を立てるなどして、計画的に学習を意識させている。家庭学習ががんばり週間を設け、継続的な家庭学習への取り組みを促している。	「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の問いに肯定的に解答した児童の割合は74%で、県平均よりも4.3ポイント下回っている。「学校の授業時間以外に、1日当たりどのぐらいの時間、勉強をしますか」の問いに、宇都宮市が定めている1時間以上と解答している児童の割合は、平日（月曜日から金曜日）、休日（土曜日・日曜日）ともに76.5%で、県平均よりも平日は6.4ポイント、休日は7.4ポイント上回っている。